

## 東京港

### ゲートオープン拡大

# 計6万本超利用

## オリパラ期間の車両分散に効果

東京都港湾局は24日、東京五輪・パラリンピック開催期間を中心に、東京港内の全コンテナターミナル（CT）で計28日間にわたり実施したゲートオープン時間拡大で合計6万2668本の利用があったことを明らかにした。特に早朝と夜間で

の利用が堅調で、大会期間中の車両の分散化に効果があったようだ。東京港ではオリパラ期間中の大会関係交通と物流機能との両立・調和に向け、交通・物流の抑制や分散を図る交通需要マネジメント（TDM）に基づいた対策を進めてきた。

ゲートオープン時間の拡大は、一連の施策の目玉となる取り組みで、7月14～16日の3日間と、8月24日～9月8日の土日を除く12日間で、オープン時間を午前8時30分から1時間前倒し、夜間は午後4時30分から午後6時まで延長した。

また、7月19日から8月6日までの土日祝日を除く計13日間では、早朝・夜間に加え、翌日午前4時まで深夜ゲートオープンを実施した。ゲートオープン時間を拡大した計28日間で利用があったコンテナ本数は、計6万2668本。その内訳は早朝が3万73本、夜間3万2536本、深夜59本だった。

都の関係者によると「長期間にわたる取り組みだったが、関係する方々の協力もあり、大きなトラブルもなく終えることができた」という。通常午前と夕方の時間帯に集中する車両の平準化にも一定の効果があつたことなどから、大会前に懸念されていた大きな混乱は生じなかったようだ。

都港湾局では現在、CT周辺の混雑状況の「見える化」に取り組みほか、コンテナ搬出入予約制の実証実験などの混雑対策を推進。今回のゲートオープン拡大施策での効果についても今後の施策に生かされることが期待されている。